



園だより 10月

令和7年9月30日

千代田区立麴町幼稚園

園長 木村 恭子

子どもたちと楽しむ秋

園長 木村 恭子

ススキ コスモス ワレモコウ… 今年も秋の草花が、玄関ホールのお月見コーナーを彩ります。野菜や果物が飾られると、そばで遊んでいた3歳児はな組の子どもたちがすぐに取り囲み、「なんで置いてるの?」「これどうするの?」と興味津々。次に通りかかった5歳児そら組の子どもは「これはサツマイモ!あとはナシ、クリ。」「この黒いの何?」「丸くてウンチみたい〜」とサトイモの正体を巡ってワイワイ。3年目になると毎年見てきた光景の反応です。4歳児やま組からは早速、「♪でた でた つきが〜♪」の歌声が。白い紙粘土でお団子もこしらえて、お月様に見てもらおうとテラスにお供えしていました。

空気が乾燥する秋、澄んだ夜空に特に美しく輝くことから、中秋の名月と称して十五夜に月見をするようになった古くからの行事。ススキは神の依り代(宿る場所)の意味があるそうです。数ある季節行事の中でも七夕や節分などに比べると現代は若干省略され気味?ですが、「静かに眺め、感謝し、祈る」という日本的な美意識を体現した貴重な風習です。

幼児期に「目に見えないものを尊ぶ思い」「自然の循環を感じながら日常を祝う思い」に触れる経験は、知識や技能よりも前にある、人としての土台となる文化的アイデンティティの基盤を築く学びにつながるでしょう。子どもたちが教師から、秋の実りを感謝する行事の意味を聞く様子を見ながら、園での経験が心のどこかに残り、みずみずしい感性をもつ人の根っこになってくれるといいなと、思います。

秋は、いろいろな「〇〇の秋」が広く使われ、楽しみが増える季節です。徐々にですが、さわやかさを感じ始めた気候の中、園内でも、子どもたちの「〇〇の秋」が所々で展開されました。



“おやこでスポーツ”に向けて各学級思い切り体を動かして…



親子で絵本を読む時間を楽しんで…



花火を描いて、芸術?にも親しみました。

(今月16日には観劇も楽しめます!)

今月17日には稲刈りを迎え、「実りの秋」を楽しみながら、子どもたちとともに大地の恵みへの感謝を学びます。温暖化で秋をじっくり味わう間もなく、一足飛びに、ある日園庭に冬の寒風がふき始めた…にならないよう、季節の気配には、より五感を研ぎ澄ませ、秋を楽しんでいきたいものです。

そして行楽の秋、10月は遠足シーズンに入ります。今号は、そのお知らせの内容が恐縮なほどぎっしり…ですが、どうぞご協力いただき、子どもたちの秋の学びを応援していただきますよう、お願い申し上げます。

今年の十五夜は10月6日。翌日の7日が満月です。夜空に盆のような顔を出してくれるのでしょうか。親子で見上げてみるのもいいですね。